

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170501084		
法人名	有限会社 北海道ふれあいの家		
事業所名	グループホーム ふれあいの家・月寒		
所在地	札幌市豊平区福住1条1丁目9番24号		
自己評価作成日	平成24年9月28日	評価結果市町村受理日	平成25年12月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは地下鉄福住駅に近く、閑静な住宅街の一角に広い庭のある古民家利用型の定員7名のホームです。利用者様、職員全員が女性です。
 交通の便も良く、広い庭には季節の花が咲き四季の移り変わりを感じ見られます。小さな菜園には、キュウリ、トマト等の野菜を作り利用者の皆様感動する場面もあります。
 近くには、大きな商業施設も多くあり、散歩がてらのお買物、お茶を楽しむ事もあります。
 食材は産地にこだわったものを用意し利用者様、職員とが仲良く調理する姿があります。又、時々の方行事に合った食事を提供し喜ばれております。テーブルを囲む嬉しさ、美味しさ、楽しみがあります。家庭的雰囲気のあるグループホームです。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0170501084-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成24年10月10日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は古民家をリフォームした建物なので、訪れる人々が何処か懐かしさを感じ、ほっと安らげる佇まいがある。12年目を迎えた事業所は、地域の一人として着実に根付き、利用者が安心して暮らせる基盤を築き上げている。閑静な住宅街に立地しながら、地下鉄駅から3分程で、散歩コースの公園や買い物を楽しめる大型スーパーも近隣にあり、利便性に優れている。事業所の特徴として、入居定員7名の少人数制にこだわり、利用者一人ひとりと向き合っている。また利用者の能力を引き出し、喜びや達成感を得られる様に、個性を持ったケアサービスに取り組んでいる。職員は、利用者と共に笑顔で穏やかに接し、尊厳あるその人らしい暮らしを支援し、共に支え合う関係作りを努めている。毎日の楽しみ事の一つである食事には、産地にこだわった食材を豊富に使い、吟味した器に工夫を凝らした手作り料理を盛り付け、食卓を飾り、利用者、職員と一緒に楽しく食している。運営推進会議には、家族全員に出席を呼びかけ、地域住民、行政職員の参加を頂き、事業所の運営や災害対策の協力等、情報の共有を図っており、利用者、家族、地域との繋がりを深め、双方向関係を築いている。月2回の音楽療法やダンス等のボランティアの訪問、実習生の受け入れ、町内会清掃作業への参加等、人と関わりを持ち、地域社会と繋がって暮らす事が出来る様に取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ケアサービスを提供する意味で、常に根本的な考え方に立ち戻る姿勢を心がけている。	創設者の思いを継承し、開設時から地域との関係性重視の運営を展開している。理念である「思いやりの心」を管理者、職員は、日々の申し送りや内部会議等で話し合い共有し、理念の本質を理解し利用者へのサービス提供に取り組んでいる。	理念は、事業所の目に付く場所に掲示されているが、もっと事業所の理念を広く周知・啓発を図るためにも、パンフレット等への明示も工夫、検討することを期待する。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の班長、子供110番などをさせて頂いている広報、回覧の配布には利用者も一緒に同行する。又、夏祭りの子供神輿などホームの前で休んでいたいて交流を深めている。	今年は町内会の班長を務め、町内防火訓練、清掃作業、介護相談の受託、椅子作成講習会のボランティア等、地域の中での事業所の基盤作りに積極的に取り組んでいる。散歩や買い物、庭作業時にも声を掛けて頂き、日常的に交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の総会、班長会議の出席、町内会防災訓練を利用者と参加する。人材育成の貢献としては実習生の受入れをしている。又、地域の人より認知症の相談があった時はアドバイスなど出来る限りの事をする。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の運営推進会議を行い、利用者の状況、評価への取り組みを報告をしている。災害時訓練の協力も年に二回参加協力して頂き、意見をいただいています。	会議は2ヶ月毎に開催され、行政職員、町内会役員、家族、利用者等の参加を頂き、運営状況、行事案内、外部評価報告、避難訓練協力要請等を議題に活発な意見交換が行われている。全家族に開催案内及び議事録を配布し、情報の共有に努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市や区の担当者と日頃から電話や窓口などで利用者、家族、運営の相談や連絡を行い、連携を深めています。	市の介護福祉課とは運営者が窓口となり、実務関係や事故報告認定更新時等で相談し助言を頂いている。運営推進会議には包括職員の参加を頂き、管理者は市や区の連絡協議会に参加し交流を持ち、情報の共有を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会をしている。日中は玄関を施錠せず開放している。	身体拘束に関するマニュアルを整備し、管理者・職員は外部研修及び内部学習会にて身体拘束の具体的な内容を把握し、身体拘束の無いケアに取り組んでいる。玄関入り口にはモニターテレビを設置し、見守りながら自由な暮らしを支援している。	今月、職員の外部研修受講が予定されており、内部勉強会にて全職員が共有を図る事を期待する。利用者が抑圧感、閉塞感を感じるケアは全て身体拘束に繋がることを認識するためにも、内部勉強会のテーマとして常に掲げ、全職員が高齢者の権利擁護や身体拘束に関する内容とその弊害を徹底理解することを望みたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修などを受け、その資料をもとに勉強会をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度的な知識は個々の学習等で理解してと思われるが、現在、制度の活用が必要と思われる。利用者がいないことから職員間での勉強会まで至っていないのが現状です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には事業所のケアに関する考え方、取り組み、退去を含めた事業所の対応可能な範囲について説明を行っている。状態の変化などにより契約解除に至る場合は、家族と相談し、その後の対応方針も含めて納得を得られるよう説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には、運営推進会議などの参加出席をお願いし、又来訪時には意見、要望等を遠慮なく話してもらえるように常にその環境づくりはしている。	職員は家族来訪時の会話を重視しており、話し易い雰囲気作りに努め、意見・要望を汲み取っている。運営推進会議には全家族に参加を呼びかけ、参加者間では忌憚りの無い話し合いが行われ、抽出された意見は運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の要望意見は出来るだけ聞くように心がけているが不満や苦情は言い難い部分もあると思うので、ミーティング、勉強会、食事会、個別面談等を行い意見、考え方を聞くようにしている。	日々の申し送りや内部会議において、職員は利用者のケアに関する提案や業務上の要望等、管理者と意見を交換し運営に反映させている。ホーム長との個人面談の機会でも意見交換を行い、働く意欲の向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則等を整備し、処遇改善に努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に合った研修を受けられるよう計画している。職責を与え、各自が自信を持って勉強してもらえようとしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム管理者連絡会に参加し、交流を深めている。実践者研修等の受入れにより他事業所の職員とのネットワークが作れるよう努力をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談で生活を把握するように努め、本人からの言葉、感情、表情等を観察し受け止め、求めていること、不安を理解するよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との面談時には会話だけでなく、声のトーン等からも家族の心理を理解するように努めており、事業所としてどのような対応が出来るか話し合っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の現状を理解して、当ホームに入所する事で本人、家族がより良い状態になるか十分話し合っています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており普段から利用者に教えてもらう場面があり、又そういう場面が多く持てるように工夫や声掛けに配慮しています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気づきの情報共有に努め、本人と一緒に支えるために家族と同じような思いで支援している事を伝えています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族など関係者が来訪した時には居心地よく過ごせる雰囲気作りを心がけております。馴染みの美容師さんに来訪してもらい、継続的な交友が出来るように努めています。	事業所は家族の強力な応援のもと、利用者の馴染みの美容室や墓参り、帰省等、これまでの習慣を継続できる支援に努めている。友人の来訪の折には、お茶を持って成す等、居心地良い雰囲気作りを心がけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の表情や性格を見極めながら良い関係が作れるように声掛けや、必要に応じて職員が間に入る等の配慮をしています。又心身の状態や気分、感情で日々時々変化する事もあるので注意深く見守るようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した時でも、今まで通りの対応をし『今後もいつまでも相談に応じます』『落ち着いたら遊びに来てください』と笑顔で声掛けしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の関わりの中で会話や行動から本人の思い、意向を汲みとり職員間で情報交換しながら本人の希望にそえるよう努めている。	利用者一人ひとりの言葉や仕草を見落とさず、見守り、意向や希望の把握に努めている。帰宅願望の利用者には電話で家族の声を聞かせたり、喫茶店や散歩に出かける等、本人本位に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報や本人との会話を通して、大事にされている思い出や出来事を把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の様子を見ながら心身状態を把握し、職員間で情報共有し、その人のペースに合わせた生活を支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常の支援の中から互いに気づいたこと等を職員間で意見交換し、介護計画の見直しに活かしている。	介護計画は、利用者、家族の意向を基に、医師、看護師の所見を踏まえ、アセスメント、モニタリングを毎月行い、全職員で検討し、介護支援専門員が纏めている。3ヶ月毎の定期見直しや変化に応じた見直しも随時行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録に日々の様子や、表情、会話のやりとり排泄、食事、水分摂取量を記録している。介護計画の見直しの際は日々の記録から評価している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族など訪問された時は、その時々時間帯で食事やおやつと一緒に食べて頂いています。誕生会には家族も招待し一緒に過ごす時間をとっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣住民や警察、消防署、民生委員等の地域の人々の力を借り、見守られた生活を送れるよう協働している。町内会の行事、清掃、盆踊りなどにも参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族が納得した医療機関を確保している。週に一度、看護師による健康チェックと月に一度、主治医による往診、職員による通院介助をしている。	医療連携体制が整備されている。看護師職員による週1回のバイタルチェックにて日常の健康管理が行われ、協力内科医による月1回の往診も受けている。かかりつけ医の受診送迎も事業所が支援に努め、診療内容は家族と共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康管理など利用者の細やかな変化を申し送りや内部会議を通して利用者一人一人の状態をカンファレンスしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には時折折見舞いに訪れ利用者の様子を見に行きます。担当ワーカーや家族とも情報交換を行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期について事業所として対応できる最大限のケアについて利用開始時に本人や家族に十分説明しています。主治医と連携を図り対応方針を職員や家族と共有している。	重度化や終末期に向けた対応指針を整備し、本人、家族に説明を行い同意を得ている。現状では看取りの経験は無いが、重度化した場合は、本人、家族、主治医、看護師、職員とが話し合い、方針を共有し事業所としてでき得る最大限の支援を行う体制にある。	医療連携体制加算取得の現状で、全職員がターミナルケアについて学ぶ機会を設け、終末期を事業所で迎えたい利用者の希望に叶う体制作りの検討を期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防隊による救命救急法の研修を通じて応急手当を行える学習をしています。又、看護師とも利用者一人一人に合わせた急変時の対応についても話し合いがされている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導のもと利用者を含めた避難訓練を年2回実施するとともに毎月自主訓練を行っている。地域住民の訓練参加や緊急通報の協力が得られ、地域との協力体制を強化している。	年2回消防署指導の下に、地域住民の参加を得て避難訓練が行われている。更に、毎日の消火器具点検及び月1度の自主訓練も行われている。この11月には、自然災害時の訓練を予定している。スプリンクラー、自動通報装置、備蓄品も準備済である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちを大切に考えて、さりげないケアを心がけ自己決定しやすい言葉かけをするように努めています。利用者の情報については守秘義務を理解しています。	利用者がその人らしくあるために、名前の呼び方にも意志と尊厳を大切に声かけを行い、誇りを損なわない支援に努めている。個人の記録はプライバシーに配慮した管理がされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声を掛け、表情を読んだり日常会話の中から本人の思いを引き出すよう努め些細な事でも本人が決める場面を作っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切に、それに合わせた対応を心がけています。その日の体調や様子をみながら本人の希望を尋ねたり、相談しながら過ごしていただいています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝鏡に向かい、身だしなみを整えてメイクや整髪などしています。正月や七夕に着物を着たり、浴衣を着たりします。用途に合わせて訪問美容室等を利用しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の出来る事を見極め、調理や盛り付けを支援している。昼食は職員と一緒に座り会話をしながら頂いております。片付けなども積極的にして頂いて、「ありがとう」の言葉がけて感謝の気持ちを伝えます。	食事が利用者にとり楽しみ事になるように、献立を工夫している。誕生日等の行事食には利用者の希望を伺い、夏は畑で収穫した野菜を取り入れて、手作り料理にこだわり器も吟味している。食事の準備も職員と共にいき、利用者に感謝の気持ちを伝えていく。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日のメニューを記録して栄養士に意見を聞き、ひとり、ひとりの病状に応じた工夫をし、バランスの取れた食事を考えている。水分摂取は介護記録に記入している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に応じた対応をしている。一日一回義歯洗浄剤を使用し、歯磨きの際口腔内を観察している。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の尊厳に配慮し、ひとり、ひとりに合わせたリハビリパンツやおむつを使い分けて自立に向けた声掛け、トイレ誘導を行っている。	利用者の羞恥心やプライバシーに配慮し、さりげない声かけや誘導支援でほとんどの利用者はトイレで排泄を行っている。利用者一人ひとりの要望や状況に合わせた衛生用品を使用している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のメニューも考慮し、運動、野菜、水分摂取に努めている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の順番は利用者同志の話し合いで決めている。吟味した入浴剤を使用し浴室を十分に温め、足浴をしながら洗身をして温まっています。	週2回入浴日を設定しているが、利用者の希望や状況により柔軟に対応している。入浴拒否の場合は、無理強いせず声かけの工夫やタイミングを計り、上手に誘導している。清潔保持のため、足浴やシャワーも取り入れている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人に合わせて居室や居間などで休んで頂いております。思い思いの時間を過ごして頂きながら珈琲など提供しています。天気の良い日は布団を干し、寝具の点検、衛生保持に努めています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ごとの薬ファイルを作り、内容を把握できるようにしている。服用時は手渡し、飲み込みまで見守りしている。パッチには日付けを入れ貼り間違いのないよう確認する。服用後の観察も心がけている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	元気に歩ける方は買物、散歩に。体調の優れない方は庭で外気欲や菜園の収穫をして戸外の時間を過ごしている。又、野球の好きな利用者には、TVと一緒に観戦する。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調を見て、いちご狩りやレストランで甘味を楽しんでいる。本年のサーカスでは見学に行き楽しんでいる。一人一人の楽しみや習慣、希望に合わせて徒歩、又は車を利用して積極的に外出支援をする。	散歩は勿論、玄関前の畑や花壇で毎日植物と接し、戸外で過ごす機会を作っている。季節行事の桜見物や菖蒲園見物、苺狩り、月1度の外食等に加え、買い物や喫茶店、レストランにも出かけている。利用者個々の要望に応じて多くの外出支援に取り組んでいる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の金銭出納帳をつけてホームで管理している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族、知人への葉書、手紙を自由に書けるよう支援している。電話もかけられます。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には懐かしいピアノ、人形を飾り季節の壁絵を制作し、大きなカレンダーで日にちが解かるようにしている。又夏はクーラー、扇風機、除湿機、空気清浄機、冬には床暖ストーブがある。窓には鉢花、玄関には花を生けます。トイレは特に清潔に心がけています。	日差しや湿度、温度(床暖房)は適度に調節されていて、共用空間は明るく、風通しも良い。居間にはピアノが置かれ、月に2度音楽療法でボランティアの訪問を受け、演奏を楽しむ空間でもある。季節ごとに手作りの飾りつけや花が活けられ、家庭的な雰囲気と季節を感じさせる工夫が施されている。利用者の多くは、居間で過ごしており、居心地の良さが伺える。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間以外では、二階にベランダのある空間があります。テーブルとイスを置いて自由に他利用者さんと共に歓談できるようにしてあります。心地よい風を感じれる場所でもあります。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や本人好みの花、絵を飾ったりしています。収納棚があり、季節ごとに使用しない物を片付けられるようになっています。	居室前には好みの呼び名で名前が表示されている。居室内部は明るく、思い思いの生活家具や仏壇等が持ち込まれ、嗜好品が飾られ、居心地良い空間となっている。収納棚が設置されて、整理整頓も行き届いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前に名札があります。玄関、階段、廊下、トイレは手摺りをつけたり、照明を多くつけ、安全に歩行できるようにしている。			